



「学区の川はきれいなのかな」

学区を流れる更紗川の水質を調査したところ、「ややきたない」とわかった。学習を進める中で、「川は自然には汚れない」「川の水を汚しているのは人間の活動によるもの」「川をきれいにする活動を一人だけで進めてもうまくいかない」と気づいた児童は、川をきれいにする身近な活動を周りの人に紹介し、広めようと計画した。

(文責：男川小学校 角谷 明彦)



「同じ目線, 同じ立場を体験する」

細川小学校5年生は、市の福祉協議会の協力を得て、「福祉実践教室」を行う。体験学習を通して障害のある方の不自由さを身をもって経験することで、同じ目線, 同じ立場になって考える力を養った。

「目が見えないって大変」「自分たちには何ができるかな」など、見えていなかったつながり(共生・連携)を意識し、行動する想いを高めることができた。

(文責：細川小学校 浅井 康雄)



「ぼく・わたしにできること」

矢作北小学校3年生は、国語科「パラリンピックが目指すもの」の学習と関連させて、「福祉」について調べ、福祉実践教室を行った。調べ学習や講話、手話や視覚障がい者ガイド、車いす体験、高齢者疑似体験などの体験を通して、苦労や大変さに気づき「ぼく・わたしにできること」として、補助や声かけなど手助けをしていきたいという思いをもった子どもたちである。

(文責：矢作北小学校 堺 季和子)



「ともに生きる ～学ぼう社会福祉～」

六ツ美中部小学校6年生は、社会福祉について学んでいる。社会福祉協議会や地域包括支援センターなどで働く方々を招いて、話を聞いたり質問したりする機会を設けた。また、実際に特別養護老人ホームに足を運び、施設内のユニバーサルデザインや福祉車両の工夫についても学習した。子どもたちはユニバーサルデザインについて学習を深め、自分が地域のためにできることを考え始めている。

(文責：六ツ美中部小学校 森 勇輔)



「どうする？人生100年時代の生き方学習」

岩津中学校1年生は、キャリア学習として自分のこれからの生き方について考えている。市役所主催の男女共同参画出前講座では、男性保育士、男性看護師、女性消防士の方に講演に来ていただいた。性別による職業のイメージにとらわれず、自分らしい職業選択をして働くことについてお話してもらい、生徒一人一人が将来どのように生きていくのかについて考える機会となった。

(文責：岩津中学校 萩原 緑)